

入選 小学生の部

しんせつの大きさ

浜松市立豊岡小学校 二年

あだち
足立 葉南

「しんせつってなんだろう。」

おかあさんにしんせつにされたり、したことを書くんだよと言われてもむずかしくて、よくわかりませんでした。ことばがたくさん書いてあるこくごじてんを見てみましたが、しんせつのところを読んでもみると、思いやりをもって人のためにつくすことと書いてありました。むずかしいことばだったけど、やさしくすることにしていると思いました。

この前、おかあさんと買い物に出かけたときペビーカーをおしているおとうさんがいました。ペビーカーからシールがおちたのを見つけて、ひろってあげました。とどけてあげたときを思い出しました。とて

も小さな赤ちゃんだったので、赤ちゃんは、わたしのかおを見ただけだったけど、そのおとうさんにすぐくよろこんでもらえてうれしくなったことがありました。

おかあさんに話をすると、

「それが、しんせつだよ。」

と教えてもらいました。

そのときのおとうさんのかおは、とてもここにこしていて、ありがとうの気持ちもすぐく出ていました。わたしもそのかおを見てうれしくなりました。

しんせつは、まだよくわからないし、これがしんせつなことというのはわからないけど、しんせつとありがとうとうれしいは、にていることが、このさく文を書いて知ることができました。小さなしんせつという名で書くさく文だったけど、しんせつは、小さくても大きくてもうれしい気もちになるのは同じだと思います。大きなしんせつをしようと思うとむずかしいので、小さなしんせつをたくさんしてみんなからありがとうと言ってもらってうれしい気もちになりたいです。

お母さんへの手紙

菊川市立堀之内小学校 二年

あらい
新井 夢菜

小さな親切って何かなと思って「親切」というかん字をしらべました。「親を切る？」なんだかこわいなって、ぞくってしました。

でも、しらべてみたら「親しい人を切に思う」という意味だとわかりました。人のことを大切に思ってやさしくすることなんだとわかって、あつたかい気もちになりました。

この間お母さんがベッドで泣いていました。「どうしたの？」と聞いたら「がんばったけど負けちゃったの」と小さな声で言いました。何に負けちゃったのかはよくわからなかったけれど、がんばったお母さんが泣いているのは、私まで悲しい気もちになりました。

私は、お母さんを元気にしたくて机にむかいました。お母さんのすきなキャラク

ターに「お母さん大すき」「がんばったね」と書きました。書いているあいだ、わたしの心はぼかぼかしてました。できあがった手紙をお母さんにわたすと、「ありがとう。」と笑ってくれました。でも、まだぼろぼろ涙がこぼれていました。「私の親切、うまくいかなかったのかな」そんな気がして、ちよつとしょんぼりしました。

でも次の日、お母さんはいつもの元気なお母さんでした。わたしは少しほっとしました。

もしかしたら、わたしの手紙が少しだけ、お母さんを元気にできたかもしれません。そうじゃないかもしれないけど、「お母さんを大切に思ってるよ」って気もちを伝えられてよかったです。

親切って、大きなことじゃなくてもいいんだと思いました。だれでも、いつでもどこでもできることです。あいさつをしたり、ありがとうと言ったり、ものをひろってあげたり。それだけでもきつと親切です。親切は相手にすぐに届かなくてもいいと思います。あとからゆっくり心に届くこと

もあるし、なにより親切をした自分の心がぼかばかになります。そうすると、なんだかうれしくてしあわせな気もちになります。

だから、これからも小さな親切をたくさん見つけて、大切にしたいです。

お母さん大すきだよ。

あいさつで優しさを広げよう

牧之原市立勝間田小学校 六年

えだむら
枝村 伶俐

ぼくは、あいさつをすることは、周りの人へ親切にすることだと思えます。なぜなら、あいさつをすると自分も相手も、さらにはその場にいる周りの人も明るく優しい気持ちになるからです。

ぼくは、サッカーで出会ういろいろな人に、笑顔で大きな声であいさつをしたいです。応援に来てくれる家の人や相手の選手、コーチ、審判の方々に、相手よりも早くあいさつをしています。理由は、笑顔で

大きな声であいさつをしたら朝から元気になるし、練習がもり上がって楽しくできるからです。最近、相良の総合グラウンドで、いろいろなコーチに元気にあいさつをしたら、コーチも元気にあいさつを返してくれました。その後もぼくに笑顔で話しかけてくれたり一緒にサッカーをしてくれたりしました。その時、「あいさつをしてよかったです。あいさつをすると、こんなふうに親しくなるし、一緒にサッカーをして楽しい時間を過ごすことができるんだな。」と、うれしい気持ちになりました。あいさつをした相手も笑顔で過ごしてくれて、きつとうれしかったのだらうなと思いました。

ぼくは、学校でも運営委員として、全校のみんながあなたかいい気持ちになる「ぼかぼかあいさつ」をがんばっています。毎朝校内を回ってあいさつをし、全校のみんなが元気になるように、笑顔、大きな声、一人一人の名前を呼ぶこと、一人一人の目を見てあいさつをすることを意識しています。すると、最近では、そのようなあいさつを返してくれる人が少しずつ増えてきま

した。「ぼかぼかあいさつ」のステップとして、今は全校で「笑顔で」「自分も相手も気持ちいい声で」あいさつすることを意識しています。この間、ろう下で四年生と話していたときに、通りかかった担任の先生に、

「怜納さんの周りにはいつも人がいっぱいいるね。怜納さんがあいさつや優しさで、いつも周りの人を明るく元気にしているから、周りの人から好かれてるんだね。」と声をかけられました。ぼくはそれを聞いて、「あいさつを続けていたら、下級生からも好かれるようになっていたんだ。うれしいな。」と思いました。

そういえば、サッカーの朝練では、早めに行って対一のコートを作っておくようにしています。そうすれば集合したらすぐに練習をはじめられます。時間があるときは他のトレーニングのコートも作っておき、自分たちの練習がスムーズにできるようになります。これも優しさなんだと気づきました。

ぼくは、大好きなサッカーを通して、あ

いさつの大切さを感じました。また、あいさつをすることで広がる人の輪の大切さや気持ちよさに気づきました。これからも、自分や周りの人が気持ちよくなるあいさつを続けていきたいと思っています。

すぐにでかけられるよ

浜松市立与進小学校 一年

おかむら
岡村 幸音
ゆきね

わたしはきをつけていることがあります。いえにかえってくつをぬぐとき、ぬいだあとくつをそろえます。じぶんのくつだけでなくおかあさんやおねえちゃんたちのくつもそろえます。

わたしのいえは五にんかぞくなので、みんなでかけるとき、ゆつくりくつがはけません。くつをはきやすいようにそろえておくとはくときにすぐにはけるし、じぶんのくつもすぐにみつけれられるからです。じぶんのぶんだけではなく、かぞくぜんいんのぶんをきづいたらちよっとそろえるだけ

でげんかんもひろくなります。

あさ、がっこうにいくとき、おねえちゃんたちとおなじじかんにでるので、いつもおおさわぎになります。けれど、みんなのくつをわたしがそろえるようになってからさいごにならなくてもすぐにくつをはくじゅんばんがまわってくるようになりました。あさ、けんかもなくなりました。

じぶんのくつだけでなく、やさしいきもちをもってかぞくぜんいんのくつをそろえていくようにしたら、いいことがふえました。これからもつづけていきたいです。



ゆずりあいので幸せに

熱海市立多賀小学校 五年

喜地 一暁

ぼくは、この夏休みに大人の子どもにたいする親切さをたい験しました。

ある日ぼくはコンビニエンスストアのトイレにりました。トイレは使用中で、そこには一人のわかいお兄さんがならんできました。そこにぼくもならぶとお兄さんは、「先に入っているよ全然大丈夫だから」といいゆずってくれました。ぼくは、「やさしい人だな」

と思いつまへの順番にならばせてもらいました。ならんでいるときも、出身地の話などをしてくれて、短い時間でしたがとても気持ちのいい時間となりました。

家に帰り自分が逆の立場だったら同じようなことができたのか考えてみました。このような経験があったかもしれませんが、自分もがまんしてあげて子どもをゆう先してやさしい大人になるためにぼくもゆずる

と思います。ゆずってくれたお兄さんも昔同じような経験をしていたから今回のようなことができたのかもしれませんが、人は色々な経験によってできることが増えていくのかもしれませんが、今回お兄さんにゆずってもらわなければぼくもゆずるという気持ちで、生まれなかつたはずで、

ここでゆずり合いについて考えてみました。ゆずり合いには、色々あります。

順番待ちなどでお先にどうぞという場合、車の運転で道をゆずる場合、給食のおかわりじゃんけんで人が集まった場合などがあります。このようなときに、どうこうどうできるかと考えると、心によゆうがある人ができたり、やさしい心の持ち主ができたり、か去にこのような経験をした人ができたりと理由は色々あります。

ぼくも、これからの生活で色々経験しゆずり合いを心がけていきます。

最後にゆずり合いは、した人も、された人も、心がHappyになるともいいことだと思いました。

「わたしの小さな親切」

浜松市立豊岡小学校 四年

近藤 史佳

わたしには、二つ下の妹がいます。妹は、毎日いろいろな小さな親切をしていると、わたしは思います。たとえば、家でお母さんがあらっているしよつきを、てつだつてふくこと。ごはんの前に、おちやわんやおはしをテーブルにならべること。学校では、友達がいすをひこうとしていたら、「わたしがやるよ」と手つだつてあげることもあります。学校でだれかがえんぴつを落としたり、すぐひろってあげたこともありました。妹は、それをとくべつなことのよう思っていないようです。まるで、あたりまえのようになっているのです。

そんな妹を見ていると、「わたしも、もっと親切にできる人になりたい」と思うようになりました。でも、いきなり大きなことをするのはむずかしいし、長くつづ

けられないかもしれません。そこで、まずはまい日の中でできる、小さな親切をやってみようと思いました。

わたしが選んだのは、「妹といっしょに学校へ行くとき、妹を守るように歩くこと」です。わたしの家から学校までの道には、車がたくさん通るところがありません。わたしは、車道の近くをわたしが歩き、その内がわを妹に歩いてもらうことにしました。はじめは、わざとらしくないかな、と少しはずかしい気持ちもありました。でも、「妹を守りたい」という気持ちのほうが強くて、つづけることができました。

毎日やっていると、だんだん妹は気がついたのか、「いつも外がわを歩いてくれてありがとう」と言ってくれました。そのとき、わたしはとてもあたたかい気持ちになりました。そして、「ああ、親切って、やってあげる人もうれいし、やってもらう人もうれいんだな」と思いました。このことをきっかけに、わたしはもっといろいろな親切に気がつけるようになった。

りたいと思うようになりました。たとえば、だれかが教室で落とした消しゴムをひろってあげる。雨の日に、かさを持っていない友達に入れてあげる。そういうことも、全部小さな親切です。

妹は、わたしにとって「親切の先生」のようなそんざいです。妹のように自然に人にやさしくできる人になりたいです。そのために、これからも妹を守って歩くことをつづけます。そして、それだけでなく、まわりをよく見て、気がついたらすぐ行動できるようにしたいです。小さな親切を毎日少しずつふやしていけるようにしたいと思います。

いつか、だれかが「史佳はやさしいね」と言ってくれたらうれいします。それよりも、わたしがした親切でだれかが少しでもあたたかい気持ちになってくれることが、一番うれいします。これからも、わたしは小さな親切を大切にしていきたいと思えます。

わたしのたいせつなおもいで

浜松市立白脇小学校 一年

柴田 ひなの

わたしはごさいのときに、おとうさんとおかあさんといっしょにりょうこうにいきました。そのかえりにいったサーブエリアでころんでしまって、てもっていたマールチョコのなかみをぜんぶゆかにおとしちゃいました。たべるのをたのしみにしていたので、おおきなこえでないてしまいました。とてもかなしかったです。そのとき、しらないおねえさんとおにいさんが、わたしのところにきておなじマールチョコを、

「よかったらたべてね。」

といっかけてきてくれました。すごうれしかったです。たかかったのにマールチョコをかってくれました。とてもおいしかったです。そのおねえさんとおにいさんは、とてもやさしいとおもいました。

「ひなちゃんも、おねえさんとおにいさん



入選

「みたいなやさしいひとになってね。」

とおかあさんがいいました。このおもいで
はろくさいになったいまでもわすれていま
せん。わたしもおねえさんとおにいさんみ
たいに、やさしいひとになりたいです。わ
たしのおともだちがこまっていたり、ない
ていたり、かなしいといっていたら、

「どうしたの？」

とってあげるようになりたいです。この
おもいではわたしのたいせつなおもいで
です。おねえさんとおにいさんにまたあいた
いです。

「小さな親切」

浜松市立雄踏小学校 六年

鈴木 海希

私は「小さな親切」という言葉を聞くと、
最初はちよっとしたことだから、大したこと
はないと思っていました。でも、このごろ
は小さな親切こそが人を笑顔にしたり、気
持ちを温かくしたりする力をもっているの

ではないかと感じています。

ある日、学校で教科書を落としてしまっ
たことがあります。あわてて拾おうとし
たとき、友達が先に拾って私に、「はい」と
手渡してくれました。その時の「ありがとう」
の気持ちは今でも覚えています。たったそ
れだけのことなのに、私の心はとても軽く
なりました。

また、道を歩いている時に、買い物袋を持っ
たおばあさんが困っているのを見たことが
あります。私は、勇気を出して「持ちましよ
うか」と声をかけました。最初は少しはずか
しかったけれど、おばあさんが「ありがとう、
助かったよ」と言ってくれた時、胸がぽか
ぽかしてとてもうれしかったです。

私が親切にしたつもりでも、実は、自分が
一番元気をもらっているのだと思いました。
親切は相手のためだけではなく、自分の心
も明るくしてくれる魔法のようなものと
感じます。

もし、誰かが落とした消しゴムを拾って
あげたり、重い荷物を持ってあげたり、元
気のない友達に声をかけたりしたら、その

小さな行動が周りの人の気持ちを楽にして
くれるはずです。私一人の力は小さいけれど、
たくさんの方が同じように小さな親切を積
み重ねたら、きっと社会全体が優しい空気
に包まれると思います。

これからも私は、見て見ぬふりをするで
はなく、自分にできる小さな親切を大切に
したいです。そして、大人になってもその
心を忘れずに、人を笑顔にできる人であり
たいと思います。

小さな親切

浜松市立上島小学校 五年

仙波 円香

私は、八月十七日に浜松の農業・水産業・
ちく産業・地いきしげんを学ぶ食育体験プ
ログラムとして、「一日職業体験 Cafe
キッズアドベンチャー」に参加しました。
このプログラムは、カフェスタッフとして、
どういふふるまいをしたら良いのか？どう
いう風な店員さんだったらあなたはまた来

たいと思うのかというコンセプトの元、一日プロのカフェスタップとして働くというプロジェクトでした。

まず最初に、お客様にあいさつをし、席に案内しました。この時に、お客様が、後をついてきているか後ろをふり返ったり、表情よくむかえ入れることを、意識しました。

次に、お客様にちゅうもんをききました。しっかりと何を飲みたいか、何を食べたいかメモをしてキッチンに大きな声でしっかりと伝えることができました。

次に、料理をもりつけたり、スイーツをデコレーションしたりしました。この時はカレーでした。カレーの上にグリン野菜をのせることをやりました。そこで工夫したのは数をまちがえないようにしたのと、おしいしうに見えるならべ方をそうぞうしながらやりました。また、デザートのクレープをつつみ、ソースをデコレーションし、見た目がかわいく、食べる人の気もちがもりあがることを考えてやりました。

そして、その料理をお客様に運びました。

こぼさない様に自分の手に集中し、お客様の方向に向かって歩いて、机にゆっくりとメニューを言いながら置きました。最後に、お金のやり取りもしました。メニューにのっている代金と違いがないかかくにんをして丁寧いに行けとりました。今回、カフェスタップとして働くこと決まった時に、店員さんが行うことをイメージしていたけれど、こんなに細かく考えて行動するということとは知りませんでした。お客様への小さな親切がちりばめられていて、素てきなことだと思いました。相手を喜ばせたり、心地良く過ごしてもらうことを常に考えていけば、「小さな親切」の一つにつながるのだと私は今回の体験で気づくことができました。これから、家族や、友だち、学校の先生、私の周りの人たちに対しての、「小さな親切」を見つけて、幸せな時間を過ごせるように行動していきたいです。

たくさんありがとうございます

焼津市立黒石小学校 二年

多々良 光希

ぼくは、なつ休みにおかあさんの会社におてつだいにいきました。みんなとおなじエプロンをきて、おすしやおさかなにしようみぎげんのシールをつけました。たくさんのおきゃくさんがいて、ぼくはおおいそがしでした。おきゃくさんは、ぼくがかごをわたすと、

「おてつだいえらいね。ありがとう。」

といってくれて、とてもうれしかったです。

おみせの人のおてつだいもいっぱいしました。とつてもつめたいれいとうこにしようひんをとりいたりしてしようひんにしようみぎげんのシールをはりました。しようひんもきれいならべて、みんなにほめられてうれしかったです。たくさんのおてつだいをしていっぱい、

「ありがとう。」

といってくれてよかったです。



入選

一日おてつだいをして、たいへんだったけど、みんなにたくさんおれいをいってもらえてがんばれました。

ぼくもこれからはたくさんありがとうといえるようにしたいです。またおてつだいもがんばってやりたいです。

小さな親切

富士市立富士川第一小学校 四年

はるやま
春山 慶人

「親切」という言葉を聞いて、ぼくの頭に思いうかぶのは、お母さんの思いやりのある行動です。それは、この前いつしよに行った病院の入口でおじいさんがちゅう車けんを地面に落としてしまった時の事です。おじいさんは、ちゅう車けんを拾う事が大変そうに見えました。ぼくがお母さんにそう話しかけようとした時、お母さんがおじいさんの落としたちゅう車けんをす早く拾いおじいさんに声をかけわたしました。おじいさんはとてもうれ

れしそうでした。

ぼくがびっくりした事は、知らない人にすぐに話しかけ親切な行動をしたことです。なぜならば、家族や友達、知っている人に話しかける事はぼくにもできるけど、知らない人に急に話しかけるなんて、なんだかはずかしくてぼくにはできません。なんとなく周りにいる人の目も気になってしまからです。

ぼくは、お母さんに、

「どうしてお母さんは知らない人にすぐ話しかけることができるの？」と聞きました。すると、お母さんは、

「仕事でいつも知らない人とせつする機会が多いからかな。そんなにむずかしい事ではないの。あいさつするのと同じ。慶人も家族や友達以外の知らない人にあいさつする事があるでしょ？登下校の時にすれちがう人と。それができるなら、きっとできるはずだよ。ただ、子どもだけの時はむやみに大人に話しかけないように。はんざいにまきこまれないよう用心しようね。」と言いました。

お母さんの話を聞いて、ぼくにできそ

うな事は、登下校時のあいさつと家族や友達、知っている人達への思いやりのある行動だと思いました。あいさつは、親切とは関係ないかもしれないけれど、あいさつを当たり前にできる事でこまっている人を見かけた時にすぐに声をかける事ができるようになれそうな気がします。あとは、友達の落とした消しゴムやえん筆を拾ったり、お母さんが両手に荷物を持っていたらドアを開けたり、転んでしまった友達や下級生に声をかけたり、考えてみるととく別な事でなくてもぼくにもできそうな事がたくさんありそうです。ぼくが図書館でたなに手をぶつけていたくてなきそうだった時、やさしく声をかけてくれた友達がいました。うれしかった気持ちを今でもおぼえています。

まずは、家族や友達、身近な人達に。小さな事からぼくなりの「親切活動」始めます。

人の気持ちができる人間に、すぐに行動できるような人になりたいです。

お帰り、みいちゃん

磐田市立大藤小学校 三年

やまもと
山本 菜希華

「うちのみいちゃん来てないかな。」

ある日、となりのおばあちゃんが、たずねて来ました。みいちゃんとは、となりのおばあちゃんが、元々捨てねこだったのを、ほごした子です。くわしく話を聞いてみたら、三日前から帰って来なくなっておじいちゃんとずっとさがしていたそうです。わたしも家ぞくも、とても心ばいになり、近所をさがし回りました。気づけば、一時間い上たっていましたが見つかりませんでした。わたしも、みいちゃんのこと、だいすきだったので、いなくなることが悲しくて、お父さんにまよいねこポスターを作ってもらいました。そのポスターをお兄ちゃんが、小学校にはってもらえないか聞いたところ、
「一番目立つ正面げん関にはっていいよ。早く見つかるといいね。」

と言ってくれたそうです。それを聞いて悲しかった気持ちが少しやわらぎました。また、こうりゅうセンターにとなりのおばあちゃんがポスターをはりに行ってくれました。それから少しでも多くの人に知ってもらうために、友だちにたくさん聞いたり、じち会のグループラインにメールを送りました。

友だちや地いきの方からも、

「見かけたら、すぐ声をかけるね。」

と、言ってもらって、うれしかったです。

さいしょは、これだけ多くの人に知ってもらえば、すぐ見つかるんじゃないかと思っていました。みいちゃんはなかなか見つかりませんでした。おばあちゃんもいつ帰って来てもいいように、おうちのわにいつもエサをおいてくれました。わたしたちかぞくも、車でさがすはんいを広げ、何日も何日もさがし回りましたが半年い上見つかりませんでした。わたしたちもあきらめちゃいけないと思いながら、もうだめかもしれないとあきらめそうにもなりました。八ヶ月たった

ころでした。となりのおばあちゃんが、「みいちゃん見つかったよ。いっぱいさがしてくれてありがとう。」

と、伝えて来てくれました。わたしはうれしくなって、すぐにみいちゃんに会いに行きました。みいちゃんは少しやせていたけど、前とかわらない姿を見て涙がこぼれそうでした。

おばあちゃんにどうやって見つかったか聞いてみたところ、ポスターを見たとなりの区の人が、十日ぐらい前から、いたようなねこをほごしてる人がいると教えてくれて見つかったそうです。

長いき間見つからず、あきらめそうになることもありましたが、こんなにも多くの人にきょうりよくしてもらいみいちゃんを見つかることが出来ました。一人一人の親切がうれしく、わたしの心は温まりました。わたしも、みんなにももらった親切を色々な人にかえせるようにしていきたいと思いました。

